



ザルツブルグ



広島オーストリア協会 会長

大 辻 茂

会員の皆様には、平素より広島オーストリア協会の活動に、ご支援とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、昨年度の広島オーストリア協会は、6月に年次総会、12月にはクリスマス例会、3月にはケーキと音楽を楽しむ会等のイベントで、年間を通じて多くの会員の皆様にご参加いただき、賑やかな社交の場となりました。残念なのは、8月に広島を襲った集中豪雨災害のため、夏のビアパーティーが急きょ中止になったことです。楽しみにしていた方もたくさんいらっしまったと思いますが、事務局とも相談しながら、中止という措置を取らせていただきました。

6月の総会には、ベルンハルド・ツィムブルグ大使にもご出席いただき、改めて日本とオーストリア両国の友好関係を築くとともに、楽しいひと時をご一緒に過ごすことが出来たことは、非常にうれしく思います。5月には東京麻布の大使館で開かれた、大使主催の夕食会にご招待いただき、来日中のウィーン少年合唱団の生の歌声を間近で聞かせていただくことが出来ました。さらに特別ゲストとしてお見えの皇室関係の方ともご一緒させていただくという機会を持たせていただき、私にとって非常に名誉ある経験をさせていただいたと思っています。

今後とも広島・オーストリア間の交流が、友好の精神に基づき、ますます活発になり、会員の皆様にオーストリアをより身近に親しんでいただけるよう、活動の充実に努めて参ります。皆様の力強いご協力ご支援を賜りますようお願い申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。



- 日 時 平成26年6月2日(月) 18:00~20:00
- 場 所 ANAクラウンプラザホテル広島
- 出席者 105人
- 来 賓 ベルンハルド・ツィムブルグ大使

来賓として初めてベルンハルド・ツィムブルグ大使にご出席頂いた。大使は挨拶の中で、「広島オーストリア協会のさまざまなイベントは、日本とオーストリア、2国間の文化交

流の推進、さらには日本人とオーストリア人という個人間の交流にもつながっている。ここに大きな意味があり、このような協力関係を今後も継続できることを心より願っている。」と述べられた。懇親会では、広島で活躍する桐朋学園大学出身の山本綾香さん松田亜紀子さんによるフルートとマリンバの演奏で出席者はヨーロッパの音楽を楽しんだ。



平成26年度事業報告

平成26年度理事会・総会

6月2日(月) ANAクラウンプラザホテル広島(参加者:105人)

パウル・バドゥラー=スコダ ピアノリサイタル

6月7日(土)広島上野学園ホール(入場者:997人)

講演会・ビヤホールの会

8月21日(木) 広島アンデルセン(中止)

クリスマス例会

12月2日(火)リーガロイヤルホテル広島(参加者:128人)

ケーキと音楽を楽しむ会

3月21日(土)バッケンモーツァルト コンツェルトハウス幟町店(42人)

平成27年度事業計画

平成27年度理事会・総会

6月10日(水) ANAクラウンプラザホテル広島

講演とビヤホールの会

8月

クリスマス例会

12月

ケーキと音楽を楽しむ会

平成28年3月

平成26年度役員(平成26年6月1日現在)

役 員	氏 名	現 職
会 長	大 辻 茂	(株)広島ホームテレビ社長
副会長	不 破 亨	湧永製薬(株)副会長
	光 井 安 子	音楽家
	吉 原 誠	マツダ(株)総務・法務室長
専務理事	松 原 一 彦	(株)広島ホームテレビ常務
理 事	青 木 暢 之	(株)中国放送社長
	浅 井 幹 夫	(株)中国新聞社専務
	安 田 祥 行	(公財)ひろしま国際センター専務理事
	伊 藤 裕 章	(株)広島ホームテレビ専務
	久 保 雅 史	広島エフエム放送(株)副社長
	熊 平 雅 人	(株)熊平製作所会長
	後 藤 文 生	広島テレビ放送(株)相談役
	小 溝 泰 義	(公財)広島平和文化センター理事長
	ヘルベルト・ビツヒラー	駐日オーストリア大使館公使
	中 川 英 二	三菱商事(株)中国支社長
	野 坂 文 雄	(株)もみじ銀行頭取
	林 克 士	福山商工会議所会頭
	村 尾 誠 太 郎	(株)テレビ新広島専務
	吉 中 康 麿	安田女子大学非常勤講師
監 事	小 野 雅 樹	中国電力(株)副社長
	志 水 省 夫	(株)新日放社長

運営委員

役 名	氏 名	現 職
委 員	阿 部 秀 造	(株)阿部洋酒店社長
	宇 田 均	(株)広自センター社長
	内 海 輝 雄	オフィスU代表
	大 磯 弘 志	(公財)広島平和文化センター国際交流・協力担当部長
	上 瀬 博 久	(公財)ひろしま国際センター交流部交流推進課長
	小 坂 哲 也	広島国際大学教授
	多 田 直 人	(株)もみじ銀行カスタマーコミュニケーション部部長兼広報室長
	田 中 勝 邦	広島カナダ協会・広島県日韓親善協会理事
	中 本 圭 二	マツダ(株)
	光 井 安 子	総務部総務コミュニティグループマネージャー 音楽家

特別役員

役 名	氏 名	現 職
特別顧問	ベルンハルド・ツィムブルグ	駐日オーストリア大使
名誉会長	篠 原 康 次 郎	
	橋 本 宗 利	(株)広島ホームテレビ参与
顧 問	川 野 祐 二	エリザベト音楽大学学長
	岸 田 文 雄	外務大臣 衆議院議員
	湯 崎 英 彦	広島県知事
	深 山 英 樹	広島商工会議所連合会会頭
	松 井 一 実	広島市長

パウル・バドゥラー＝スコダ ピアノリサイタル

- 日 時 平成26年6月7日(土)
- 場 所 広島上野学園ホール
- 入場者 997人

クラシック音楽の礎を築いた伝説のピアニストで最後の来日公演となった。最後の雄姿を一目見ようと大勢のファンが詰めかけ、アンコールの拍手が鳴り響く中、感動と共に幕を閉じた。

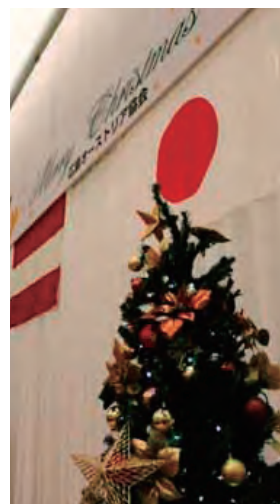


クリスマス例会

- 日 時 平成26年12月12日(木) 18:00~20:00
- 場 所 リーガロイヤルホテル広島
- 参加者 128人

冒頭の挨拶で大辻会長から、8月のピアホールの会が中止になったことに対するお詫びと、大使館からのメッセージが伝えられ、新たにオーストリア大使館に着任されたミヒャエル・オッター商務参事官とヘルベルト・ピッツヒラー公使の経

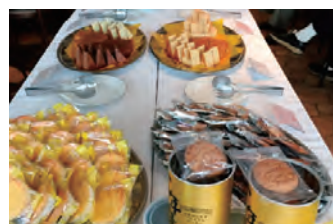
歴が紹介された。演奏は広島で活躍するバリトン・山岸怜音さん、ソプラノ・赤川優子さん、ピアニスト・岡野直美さんによる生のミュージカル。ドレミの歌など、次々に登場するヒット曲を会員も口ずさみ「映画サウンドオブミュージック」の世界を満喫した。恒例のクリスマスプレゼントの抽選会では、会場は一つになり大いに盛り上がった。



ケーキと音楽を楽しむ会

- 日 時 平成27年3月21日(土) 14:00~15:30
- 場 所 バッケンモーツァルト コンツェルトハウス幟町店
- 出席者 42人

「ケーキと音楽を楽しむ会」は、エリザベト音楽大学卒業の田中愛優子さん、桐原祐子さんによるピアノデュオコンサートで、1台4手で演奏されるクラシックやジャズなど様々なジャンルの曲、また幅広く厚みのあるピアノの音色を楽しんだ。ケーキバイキングでは、バッケンモーツァルトのパティシエによるケーキショーの実演サービスがあり出席者を楽しました。



パウル・バドゥラ＝スコダ ピアノ・リサイタル
～さよならコンサート～

【日時】：平成26年6月7日(土) 14:00開演

【会場】：広島上野学園ホール

【曲目】：

ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ 第8番 ハ短調「悲愴」作品13

モーツァルト：ピアノ・ソナタ 第14番 ハ短調 K457

ハイドン：アンダンテと変奏曲 ヘ短調 Hob. XVII-6

ハイドン：ピアノ・ソナタ ハ短調 Hob. XVI-20

ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ 第15番 ニ長調「田園」作品28



新緑の眩しい6月の広島上野学園ホールに、ゆっくりとタクシーから降りたパウル氏。出迎えたファンと握手を交わし、やさしい笑顔をこぼす。

昭和34年に初来日してから半世紀が過ぎ、いよいよ最後の来日ツアーとなった、このラストコンサート広島公演がいよいよ当日を迎えたのだ。86歳、ともかくにも無事に会場に到着してくれたことで、安堵感が広がる。

リハーサル中、パウル氏は自らの工具を取り出し、ピアノの調律を手直ししていく。その姿は演奏家ならぬ、まるで長年技を磨いた職人のよう。ツアーに同行している奥様は彼を温かく見守りながら、衣装の燕尾服を準備したり楽屋を整えたりしている。素敵なカップルだ。それにしても奥様はずいぶん年下のご様子！86歳でウィーンからの長旅も経て日本で演奏ツアーをこなすパワーの源は、この若い奥様なのかも？と思わずにいらなかった。

午後2時を迎え、開演。プログラムの最初から、大曲の演奏だ。まるでいきなりコース料理の中のメインディッシュが出てきたような気分になる。ベートーヴェンの初期のソナタの中で最も有名だとされる作品『ピアノ・ソナタ 第8番 ハ短調「悲愴」作品13』。20世紀最高の巨匠ピアニストが奏でる「悲愴」、この1曲を聞いただけでも満足できたお客様もいらっしまったのではないだろうか？

演奏は次のモーツァルトへと進み、そして後半へ突入。第2部の幕開けはハイドンが2曲。その音色

は、パウル氏の優しくてまろやかな人間味が滲み出たものだった。そして穏やかなだけではなく、86歳という円熟した音楽家の内から溢れ出るパッションが激しく伝わってくるものだった。静けさと激しさの両方が相まって心が奪われてしまうような演奏。本当に素晴らしい時間だった！

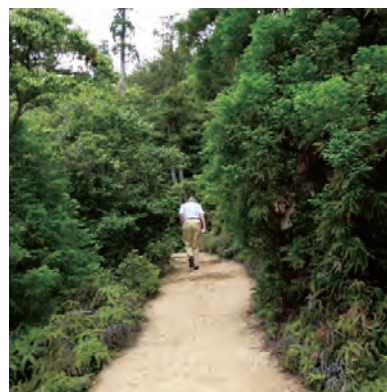
あっという間に最後の1曲となった。再びベートーヴェンの大曲、「ピアノ・ソナタ 第15番 ニ長調「田園」作品28」。6月の景色と重なるような麗らかで美しいピアノ。さよならコンサートに相応しいフィナーレだった。アンコールにも次々と応じて、まだまだパワーは奥底からいくらでも湧いてくるようだ。きっと最後となる日本ツアーを終えても、ウィーンに帰ってまた進化し続けていくのだろう。

フルトヴェングラー、ベーム、カラヤンといった世界最高峰の音楽家と共に、クラシック音楽界の礎を築いた伝説のピアニスト、パウル・バドゥラ＝スコダによるラストコンサート広島公演は、大盛況のうちに幕を閉じた。暑い中ご来場してくださったみなさまに心より感謝申し上げますと共に、86歳の深みと進化を間近で体験できた奇跡のような時間をご一緒できたことを喜びたい。

ツィムブルグ大使が宮島散策

昨年6月総会にご出席いただいた翌日、ベルンハルド・ツィムブルグ大使が初めて宮島を訪問されました。日本の伝統文化に大変興味をお持ちの大使は、時間をかけてゆっくり厳島神社を見学された後、岩惣で食事。そのとき、弥山に登りたいと言われたので急きょ、ロープウエーに乗って山頂へ向かうことになりました。山頂駅につくと、そこでは物足りなくなったのか、大使は、そのままスタスタと、徒歩で頂上に向かわれました。予定外の行動に準備不足の我々は大使について行くのがやっと。往復およそ1時間、まさに本当の登山になりましたが、頂上から見る瀬戸内海の美しさに、大使は大変満足されているようでした。後で何うと、

大使は登山がご趣味だそうで、体は日ごろから鍛えておられました。



ピッヒラー公使 初来広

一昨年、オーストリア大使館、全権公使に就任されたヘルベルト・ピッヒラー公使が、昨年8月、初めて在広島名誉領事館が置かれている広島ホームテレビを訪れ、大辻茂名誉領事を表敬訪問されました。ピッヒラー公使は、ウィーン生まれの53歳。ウィーン経済大学の助教授から1996年に外務省に入省されました。一昨年までは、本省の東アジア、オースト

ラリア、ニュージーランド、太平洋地域、ASEM（アジア欧州会合）課の課長を務めておられます。お寿司の中では、ウニが好物という日本食通でいらっしゃるようで、早くも日本の生活に溶け込まれているようでした。近々広島オーストリア協会のイベントにもご出席されることを期待します。



一人芝居「情熱に燃える魂」を終えて



広島市立大学 広島平和研究所 講師
竹本 真希子

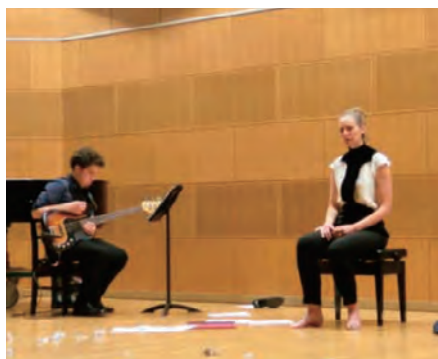
昨年10月、アステールプラザ大音楽室で一人芝居「情熱に燃える魂」が上演されました。オーストリアの平和主義者ベルタ・フォン・ズットナーの生涯を題材としたものです。オーストリア大使館・オーストリア文化フォーラムの招きにより、劇の原案者で主役を務めるマクシー・ブラハさん、日本語ナレーションを担当するイップ常子さん、音楽担当のゲオルグ・ブックスホーファーさんの3名がウィーンから来日しました。私は広島公演のお手伝いをさせていただきました。

た。劇の設営は初めて。マイクやアンプはどうする、どうしたら劇が見やすいかしら……。予想以上に準備はたいへんでしたが、同時期に広島市立大学で開催したズットナー展「平和のために捧げた生涯」とともに、彼女について知ってもらうお手伝いができてよかったと思っています。ブラハさんのズットナーはエネルギーかつエレガントで、ズットナーの平和への意志と愛を伝えるすばらしい舞台でした。

(於：アステールプラザ大音楽室)



主演のマクシー・ブラハさん





女性初、ノーベル平和賞を受賞した ベルタ・フォン・ズットナー

オーストリア国家公認ガイド イップ常子

昨年はベルタ・フォン・ズットナー(1843-1914)没後100年ということで、オーストリアをはじめ世界中で彼女の功績が報道されました。

彼女が生きた時代は日本では江戸時代の後期から大正時代の初めごろです。その時代の平和活動家、ベルタ・フォン・ズットナーとはどんな女性だったのでしょうか。彼女が誕生した時代はオーストリア・ハンガリー帝国と言って、現在のチェコも、オーストリア領に属していました。彼女は父親の死後、プラハで誕生、父親はヨーロッパでは名門貴族でしたが、母親は身分の低い平民で、父親亡き後は、貧相な生活の中でベルタは成長しました。現在とは違い、当時は女性などが働くことなど考えられない時代でしたが、ベルタは母親のもとを去り、自分で働く決心を貫き、初めて世紀末の華やかな街ウィーンにやってくるのです。その後の彼女の波乱万丈の人生は、本当にドラマチックでした。



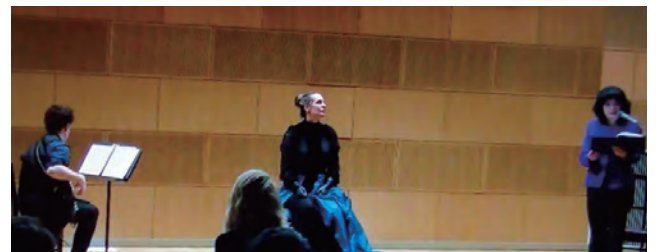
かつてのオーストリア紙幣
1000シリング
ベルタ・フォン・ズットナー

彼女はアーサー・グンダカー・ズットナーと結婚、アルフレッド・ノーベルのもとで働き、出張先のアメリカでアンドリュー・カーネギーと知り合いました。そして、彼らの支援と協力のもとで、女性の地位などまだまだ認められなかった時代にも関わらず、小説「武器を捨てよ」を執筆します。彼女にとって戦死は決して英雄ではなく、むしろ残された母子の悲惨さを強く訴える内容の小説でした。この小説はベストセラーとなり、これを機に彼女の名声も高まり、1905年、女性初のノーベル平和賞の受賞につながるのです。彼女は、

その後も平和活動への夢と希望に燃えて全力疾走していくことになります。

ベルタは「次に起こる戦争は今までにない恐ろしい戦争となるでしょう」と訴えながら、ウィーン国際平和会議準備中の1914年6月21日、ウィーンで他界しました。その1週間後、オーストリア・ハンガリー帝国の皇位継承者フランツ・フェルディナンド夫妻がサラエボで暗殺され、さらに1ヵ月後、オーストリアはセルビアに宣戦布告する事になります。このサラエボ事件が引き金となり、ベルタの予想通り、第一次世界大戦が勃発しました。昨年はちょうど第一次世界大戦勃発から100周年となります。

当時ベルタが平和を訴えて世界各国を講演したように、昨年10月、オーストリアの女優が、ベルタ・フォン・ズットナーの一人芝居「情熱に燃える魂」をヨーロッパ、アメリカ、日本などで公演をしました。そのため私は、日本語ナレーターとして彼女の公演に同伴する機会に恵まれ、2週間ばかり日本各地を訪れる事が出来ました。



一人芝居「情熱に燃える魂」日本語ナレーター

ちょうどその時期、神話の発祥地ともいわれる出雲から、人間自然科学研究所の小松昭夫社長が、松江からはじまる世界平和一国民国連キックオフ大会「出雲から陽が昇る」と題して、女性が羽ばたく地方創世のモデルをめざし、シンポジウムを開催しました。

今、世界中は混迷期にあります。洋の東西を問わず



松江で講演するイップ常子さん

現代社会が直面している数々の重要問題があり、その中で、誰しもが平和を求めています。そんな中、ヨーロッパ、アジア

からの多くの参加者が松江を訪れ、ベルタ・フォン・ズットナーの胸像の除幕式と同時に、世界中に平和のメッセージが発信されました。日本に滞在していた私もそのシンポジウムに参加して、講演者の一人としてベルタ・フォン・ズットナーについて講演をさせていただきました。



ベルタ・フォン・ズットナー像除幕式

なぜ神話の発祥地出雲から世界平和が始まるのでしょうか。実はギリシャ神話と日本の神話には、非常に多くの共通点があると言われています。神話の謎を解けば、もしかすると世界平和への道も開かれる日が到来するかも知れません。ベルタ・フォン・ズットナーが訴え続けた平和への願いを、私も夢と希望に燃えて全力疾走で努めたいと思います。



自然史博物館の天井画「生命の循環」

編集後記

昨年8月広島で発生した未曾有の豪雨災害、身近に発生した災害だけに、私の周りにも土石流で家が流されたり壊されたり、また友人の尊い命まで奪ってしまわれた方が多くいます。この災害を教訓に、今後は被害が最小限にくい止められるようにと祈るばかりです。又、このため8月21日に予定していました「講演会とビアパーティー」が中止となったことは事務局としても大変残念で、楽しみにされていた会員の皆様にあらためてお詫び申し上げます。

一方、昨年度は23人もの方々が新入会員として新たに加わり、クリスマス例会では130人の方にご出席き、大いに盛り上がりました。今年度もオーストリアの魅力を少しでも会員の皆様に感じて頂けるよう、心機一転、新たな気持ちで頑張りたいと思います。

(事務局 野崎賢治 記)